令和４年度 第１回 鳥取市共助交通推進連絡会議

議 事 要 旨

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １．日 時  ２．場 所  ３．出席者 | |  | 令和４年７月２７日（水）　１０：００～１１：００  鳥取市民交流センター　多目的室１  （下記のとおり） | | |
|  | ○会　長  ○委　員 | 〔実施団体〕  ［実施団体］ | | 特定非営利活動法人　ＯＭＵ  社会福祉法人　鳥取市社会福祉協議会  大和まちづくり協議会  いきいき国英ふるさとづくり協議会  特定非営利活動法人　さじ未来  ふるさと散岐地域づくり協議会  いきいき社まちづくり協議会  特定非営利活動法人　鳥取県地域観光推進研究所 | 高橋　慶治  山本　哲也  中村　徹  田中　幸穂  竹本　康宏  山田　和志  坂本　武寛  塚田　武志 |
|  | ○事務局 | 鳥取市都市整備部交通政策課（小森、筒井、有本淳哉） | | | |
|  |  | 【欠席】０名 | | | |
| ４．次 第 | |  | １）開会  ２）市長挨拶  ３）会長選出  ４) 議事  （１）共助交通の現状について  （２）課題等について  ５）その他  ６）閉　会 | | |

５. 議　事　概　要

（１）共助交通の現状について

　共助交通の現状について共有。

**→事務局が資料に基づき説明。**

（２）課題等について

各地域の課題等について共有。

**→各委員よりそれぞれの課題について説明。**

（発言要旨）

【高橋委員】

　大郷地区は、最初は通学利用等もあったが最終的には１人になった。公共交通として成り立たないので現在休止中。末恒地区は平成26年くらいにピークがあり徐々に減ってきている状況。当初利用が少なかったが口コミにより白兎地域の利用が増えてきた。また、スーパー・病院があるので利用がある。利用者増に合わせ増便もした。平成30年度に激減したのは移動販売「とくしまる」の影響が大きく、その後も高齢の利用者が亡くなられたり、施設に入居されたことも要因となり徐々に利用者が減っている。

課題としてはやはり乗り継ぎなく最寄りの目的地まで延伸することと、現在運転している高齢者に免許返納後にいかに乗っていただくかということ。

【山本委員】

　日ノ丸自動車の路線バス廃止により、沿線の通学手段の確保が始まり。現在もほとんどが通学利用。移動販売の利用も増えているが福部には買い物をするところがない。地域外に出ていかないといけないが、それができないのが課題のひとつ。JRとの接続を考えダイヤの設定をしているが、なかなか利用に結びつかないのが現状。通学以外の時間帯のデマンド化なども今後の課題。特殊な例ではあるが、温泉利用に毎週町外から来られる方がいる。

　通学の足も確保しつつ、町内の高齢者の方の足も確保していくことも課題。

【中村委員】

　　平成30年の10月ごろに、31年の3月に路線バスが廃止になると聞き慌てた。どこも受け手が無かったのでまちづくり協議会で受けることとなった。当初路線バスとの重複もあったが調整することができた。しかし、大和地区には商業施設がないので必ず乗り継ぎが必要になる。県道42号線への接続のみだと片道7便/日だったが、源田橋を渡り沿線することで35便/日になった。

　　当初始める際のアンケートでは利用すると言ってくれる人が多かったので定時便で開始したが、実際は、通学は保護者が送迎、一般は1人だけだった。2週間で予約便に切り替えた。現在は通学利用が大幅に増加し、予算も足り苦しくなる可能性がある。

　　12月にアンケートを実施したがやはり乗り継ぎがネックとなっている。スーパーや病院など、路線バスやタクシーと競合しないような路線延長を検討している。

　　運転手の確保も課題である。

【田中委員】

　　国英地区には主だった公共交通が無く、このままではだめだということで共助交通に取組んだ。4月から1台で2路線、6月から1台追加し循環線を運行している。昨年の実績のうち6割は子供の通学。Sマート等利用の固定客も多い。運転手は実質8名で回している。循環線の利用が低調だったため、そちらを減便し路線の方を増便した。1便あたりの利用者数をもう少し増やしていきたい。公民館だより等で引続き周知に努めているところ。

【竹本委員】

　　市の有償バスの廃止に伴い、昨年10月から運行している。現在運転手は6名、予備2名。月水金が定時運行。利用状況は、定時便と予約便は同数程度で、やはり冬の利用が多かった。今年の3月からトスクと提携し、利用者に5％オフの利用券を配布している。

　　運行開始し半年ちょっとなので、課題はこれからかと思う。

【山田委員】

　　市の有償バスの廃止に伴い、まちづくり協議会がすることとなった。1人でも2人でも乗る方がいるなら必要ではないかと、1年半かけて準備をした。現在開始して4ヶ月ほどだが、月平均300人ほど利用いただいている。やはりスーパーと病院の利用が多い。最初は指摘もあったがひとつひとつクリアした。概ね順調ではないか。毎月「地域交通だより」を配布し広報活動をしている。

　　利用料について、なぜ200円なのかという意見があるのでまた相談させていただきたい。

【坂本委員】

　　散岐と同様に、市の有償バスの廃止に伴い始めた。市の有償バスは日数が少なかったため、月～土曜日運行することとした。3名体制で1日6時間、朝7時～13時まで運行している。今は順調だが冬季の運行を心配している運転手もいる。収入見込みは当初の予定を上回る見込み。口コミでも広がり、特集記事等で周知もしている。通学便もある。

【塚田委員】

　　お話し聞かせていただいて様々課題があることを認識した。現在Maasの考え方も広がっているが、持続化していくためには、物流であったり福祉であったり何かほかに付加価値も考えなければいけない。共助交通を観光に利用するのはもう少し先かと。

　　地域でそれぞれ事情が異なるかと思いますが、こうしたことも踏まえながら研究していきたい。引続きご協力お願いする。

（その他）

　　特になし